

1 対象となる幼児児童生徒

- ・ 準じた教育内容を主とする教育課程（肢体不自由）
- ・ 知的障害教育の教科を代替する教育課程（肢体不自由）

2 教材を使用する活動

「自立活動」

3 ねらい

脳性麻痺の生徒たちは、幼いころからの姿勢異常や、筋肉等、体に負担や無理がかかっていたために腰痛症・頸椎症・脊柱側弯症、胸郭変形・変形性股関節症・関節拘縮などの二次障害を併発しやすいと言われている。本校、高等部の生徒たちのほとんどに側彎や関節拘縮などが見られ、全員が腰痛、頸椎痛などの痛みを訴えている。そこで、二次障害の進行防止を図るため、以下の2つをねらいとしたスライド教材、股関節模型、側彎Tシャツ、からだ学習マップを作成した。

- ① いろいろな二次障害の特徴や原因について学び、自分の身体の状態を確認、理解を促す。
- ② 症状の進行防止に努めようとする意識が芽生え、自分に必要な身体ケアを考えるよう促す。

教材紹介		配慮事項
<p>○スライド教材「2次障害ってなに？」</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 42シート。 ・ 絵や図、写真、実験を用い、二次障害の起こる原因を解りやすくした。 ・ 具体的な「予防法」をわかりやすくまとめた。 ・ 症状の進行について知り、ケアの必要性を実感させるも、予防できることを第一に伝え、恐怖感を与えないよう配慮する。
<p>質問② なんでそうなるの?</p> <p>実験タイム①</p> <p>脱臼と亜脱臼の違い、原因を説明</p>	<p>○模型（股関節）</p> <p>強度の異なるゴムで、筋緊張を表現した。</p> <p>○側彎Tシャツ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験を用い、体感させる。 ・ ※その他、「ペットボトル」や「輪ゴム」を用いた実験を行う。
<p>「からだ学習マップ」に記入しよう。</p> <p>①どこが痛いか。 ②脱臼、側弯、拘縮、頸椎症、腰痛、痔瘻があるか、確認しよう。</p> <p>自分の写真をみて、体が痛い原因を探そう。</p>	<p>○プリント教材（からだ学習マップ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体の痛いところや原因を記入し、進行予防のため、必要な身体ケアを確認するよう促す。